

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長氏名	今井 敏雄	生徒指導主事氏名	日野 真里
-----	------------	------	-------	----------	-------

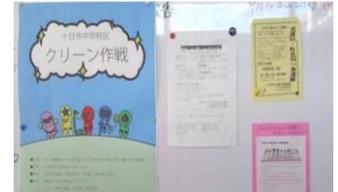
取組事例名 『人と人をつなぐボランティアで自己肯定感を高める』

取組のねらい『キーワード 学校から地域へ飛び出そう、やらされるから進んでやる』

- 校内・地域のボランティア活動で自己肯定感を高める。
- 各種ボランティア活動の中から自分で選択し、取り組んでいく。

取組の具体的内容『キーワード 気軽にできるボランティア』

- 年間通じて校内・校外を問わない幅広いボランティアを紹介（教頭窓口）。
- ボランティア募集（ボランティア黒板・学級掲示）。
- 各種のボランティアから自己選択し、申し込む。
- 時間・場所を確認し、各自でボランティア手帳をもって参加。
- ボランティア手帳に感想を記入する（ボランティアの足跡を残す）。確認シールを張る。
- 校内ボランティア（ボランティアを募集する生徒会委員会・小中生徒指導主事・教頭が企画、グループ分け作業内容を検討し実施）。



取組の課題・創意工夫『キーワード 地域とのパイプを太く』

（課題）

- 地域との連携パイプをいかにつないでいけるか。
 - ・教頭中心に地域の自治会と連携を取る。生徒会の委員会が中心になりきれていない。
- 校内ボランティアを行うための段取りをどこで行うか。



（創意工夫）

- ボランティア黒板の設置
 - ・校内・校外でボランティアが必要であるとの募集ポスターを掲示した。
- ボランティア手帳の作成
 - ・自分の参加したボランティア活動を記録に残す。学校マスコットのシールを張り、自分の足跡と達成感を持たせる。
- 各委員会で工夫したボランティア
 - ・自転車小屋のペンキ塗り、図書館の本の整頓など生徒の目線での活動内容にする。
- 「朝ボラ」と称した短時間のボランティアの企画
 - ・部活動に入っている生徒も気軽にできる。（登校前30分）
 - ・花の植え替え、通学路の清掃を行う。



取組の成果（効果）『キーワード やってよかったと思えるボランティア』

○多くの生徒が達成感を持つことができた。

（生徒感想）・自転車置き場の錆が取れてすごうれしかった。また達成感がすごかったです。

・みんなで協力して掃除でき、小学生も一生懸命ごみを見つけしてくれました。すごくきれいになったのでうれしいです。

・民生委員さんがやさしく対応してくださいました。これからもいろんなボランティアに参加しようと思います。疲れたけどやりがいがあった。

（教師）・職員室から見える自転車小屋がきれいになりました。ありがとう。

○ボランティア活動に自主的に多くの生徒が参加するようになった。

・4月から、のべ611人余りの生徒が参加できた。

○与えられたボランティアから委員会でいろいろなボランティアの形を考えるようになった。

○自分にあまり自信をもてなかった生徒が、地域ボランティアを通して、積極的に活動を行うようになり、生徒会執行部に立候補をした。

○地域ボランティアから発展し、行政と一緒に里山づくりプランに中学生として参加することができた。

今後の展開『キーワード 教師主導型から生徒主導型に』

○生徒の目線で必要なボランティアを考え、企画運営ができるようにする。そのための教師主導型の運営組織を生徒主導型の組織に変えていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード 継続して…』

○ボランティアを単発に終わらせないよう計画的に行い、継続することが大切である。生徒が達成感を持ち、かつ地域の人に喜ばれることで意欲の向上につながる。